

迷子になってしまう（徘徊）…

⇒近所の人や自治体の助けも借りましょう

【 認知症の人の状態 】

とよさと病院 認知症疾患医療センター

徘徊には、理由や目的が“あるもの”と“ないもの”があります。理由がないもの、わからないものの場合、そこに山があるから登るように、その人の本能のもとに徘徊していることがあります。いなくなるたびに、家族が探し回ったり、近所の人や警察に捜索を頼むのは大変です。しかし、



「部屋に鍵をかける」「出かけるのを強引に止める」などの方法は逆効果。余計に外に出たがるようになり、別の困った症状が現れたりします。

原因や背景…不安や混乱、恐怖や寂しさなど



- ★今いる場所、自宅が分からなくなる
- ★夕方になり買い物に行かなくては、と焦る
 - ※夕暮れ症候群（居場所がない、役割がない）
- ★何かを探しているなど、目的がある

【 対応方法 】

「交流と 役割ありて 居場所なり」

①外出をしたがるときは、できるだけ一緒に歩き見守ってあげましょう。

・安全が確保されればできるだけ自由に

しかし、その都度出ていたのでは疲弊してしまいますよね。

そこで、出ていこうとしたところで声をかけ（知恵を使う）

一緒にでかけるから、これを食べてチョット待っていてくださいね

（そのうち出ていこうとしていたことを忘れることがある）



舌の肥えたお父さんに味見をしてほしい

そして、お茶を飲んだら、夕食等を作る役割をお願いします。（ほめておだてる）

料理の上手なお母さんに夕食の準備を手伝ってほしい

参考文献：認知症の人と家族の会，認知症になった家族との暮らしかた，ナツメ社，2018，P96-97

杉山孝博，認知症の9大法則50症状と対応策，法研，2013，P94-95

山口晴保，紙とペンでできる認知症診療術，協同医書出版社，2016，P208-209

2022.6作成

②**近所の人や交番**に事情を説明しておいて、もし一人で外を歩いているのを見かけたら、連絡してもらうように頼っておきましょう。

③玄関に**徘徊防止センサー**を設置すると、一人で外出しようとしても、気づくことができます。介護用品取扱店などで購入できます。

夜間にひとりで外へ出てしまうときなど、やむを得ない場合は、徘徊防止用のカギなどを活用する方法があります。

④**服の裏側や靴の内側に名札**を縫いつけておきましょう。（住所、氏名、電話番号）結婚前ごろの記憶に戻っていることもあるので、旧姓や旧住所も書いておくとい良いでしょう。

⑤自治体に“**徘徊SOSネットワーク**”がある場合は、登録してみましょう。市区町村の高齢福祉課などが行っているサービスで、事前登録が必要です。徘徊したときに、警察や行政、関連機関、地域の人たちなどが協力して探してくれます。

他に、“**登録番号入り蛍光ステッカー**”を導入している市区町村もあります。高齢福祉課などで登録すると、靴のかかと部分に貼るステッカーがもらえます。夜でもステッカーが光るため、目に留まりやすく、ステッカーに書かれている登録番号から、身元が判明します。

参考文献：認知症の人と家族の会，認知症になった家族との暮らしかた，ナツメ社，2018，P96-97

杉山孝博，認知症の9大法則50症状と対応策，法研，2013，P94-95

山口晴保，紙とペンでできる認知症診療術，協同医書出版社，2016，P208-209

2022.6作成

ケアのコツ…「認知症になっても安心なまちづくり」

の目線は、周りの人が抱える不安に偏りがちです。



当事者である本人にとっては、制度や仕組みよりも、「自分の存在を認めてくれる人がそばにいること」が何よりも大切です。

「〇〇さん」と名前を呼ばれたり、「おはよう」と声をかけられる—そんな数秒のコミュニケーションだけでも、自分の存在を見てくれている（認めてくれる）人がいると感じられます。そうした人がそばにいてくれることが、根本的な「不安」を解消することにつながるのです。

参考文献：ペホス，“理由を探る”認知症ケア，株式会社メディカル・パブリケーションズ，2014，P27-29



医療法人社団つくば健仁会

とよさと病院

認知症疾患医療センター

TEL 029-847-9581

(月)～(水)(金)(土)9:00～16:00